

便失禁について

日本人は「羞恥教育」が良くも悪くも行き届いており、おしりに関する症状は恥ずかしさが先に立ってしまい、家族の人間にすら訴え辛いものでその悩みは決して浅くないものですが、その中でも便を漏らしてしまうというのはその最たるものと思います。特に昨今の高齢化社会にあっては、便漏れで一人悩みを抱えておられる方は潜在的にかなりの数みえるのではないかと考えられます。

また、難産のために出産時に肛門括約筋まで裂けてしまい、それが原因で便が漏れやすくなる場合もみられます。特にいわゆる自然分娩にこだわり、会陰切開を拒絶する方でこの危険性は高まります。

便が漏れる、と言うとほとんどの方は肛門の締りがゆるくなったせいと考えがちです。勿論、それも大きな要素には違いないのですが、人間が便を漏らさずにいられる要素は10以上あると言われており、肛門括約筋だけが禁制を維持しているわけではありません。例えば、いかに屈強な若い男性であっても、もし便が水様であったならばそう長いことは保持できません。先述した直腸肛門内圧検査でもわかることですが、人間の肛門は長時間にわたり水をも漏らさずにいるようにはできていません。ですから、「もう括約筋がゆるいからダメなのだ」と、最初から諦める必要はないということです。むしろ大切なのは、ちゃんと起立して歩行ができるようにそれなりにお元気でらっしゃるかどうかです。自律生活が可能な方であれば、便の性状を改善する、排便リズムを作ってあげるなどするだけでかなりの症状の改善を見込めます。「恥ずかしいから」とか、「もう高齢だから」という理由だけでハナから諦めてしまうのはいかにももったいない話です。